

満開の 桜の下で



寺尾ヶ原千本桜公園で、桜の名所がある県内の自治体が集まり、情報交換を行う「第7回さくらサミット」が開かれ、開催地である武芸川地域の3つの小学校が合唱、横笛、太鼓などを披露して来場者

を歓迎しました。サミットでは関市、美濃市、本巣市、大野町の首長と、岐阜さくらの会の川島会長がシンポジウムなどを行い、各名所の見どころなど桜談議が交わされました。

あんな事、こんな事



名門コースで大はしゃぎ

子どもたちに春を満喫してもらおうと、恒例のゴルフ場開放が行われ、岐阜関カントリー倶楽部に保育園児570人が招待されました。きれいに整備された県内有数の名門ゴルフコースは新緑に包まれ、芝生の大広場やバンカーで園児たちは大はしゃぎ。ドッジボール、かけっこなど時間が経つのも忘れて遊び、春のうららかな1日を楽しみました。

春を告げる勇壮なお祭り

武芸川町の武芸八幡宮で4月12日、「花馬まつり」が行われ、多くの観光客が詰めかけました。主役である馬の背中にピンク色の和紙で作られた花飾りが付けられ、この花飾りを持ち帰ると縁起が良いとされています。多くの人が待ちかまえる中、馬が勢いよく場内に駆け込めると、人々は一斉に馬に飛びかかり花飾りを奪い合うという、とても勇壮な光景でした。



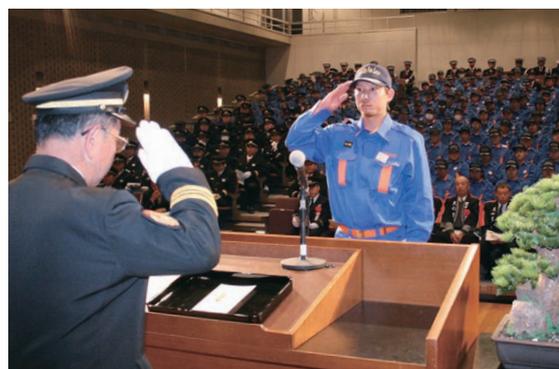


新しい憩いの場が完成

山ノ手の旧市役所跡地で昨年10月から整備が進められていた「山ノ手ひろば」の完成を祝って4月11日に竣工式が行われ、関係者や地元住民40人が出席しました。式典では、名称が採用された古田清子さん（桜台）を表彰し、銘板披露、記念植樹が行われました。山ノ手ひろばは、普段は市民の憩いの場として、またイベントの時には特設会場などとして利用できます。

奉仕の精神で郷土を守る

関市消防団の新入団員辞令交付式が、わかくさ・プラザで行われ、新たに141人が入団しました。新入団員を代表して板取方面隊第2分団の長屋賢さんが辞令を受け取り、力強く宣誓しました。また、従業員の消防団活動に配慮しているなど、消防団活動に積極的に協力している事業所に「消防団協力事業所表示証」が交付され、市内17の事業所が受け取りました。



再び役立つ道具になることを願って

岐阜県関刃物産業連合会の刃物供養祭実行委員会のメンバーら14人が、全国から回収した約35,000本の不用刃物を製鋼会社へ運び出す作業を行い、14個のドラム缶がいっぱいになりました。これらの刃物は昨年11月8日「刃物の日」の刃物供養祭で供養され、製鋼会社でリサイクルされて新たな金属材料に生まれ変わったあと、メーカーなどで再利用されます。

デカ木住宅に表彰

林野庁の外郭団体である(財)日本住宅・木材技術センターが選んだ「顔の見える木材での家づくり」30選に、(協)上之保デカ木住宅センターが選ばれ、同センターの加藤進八副理事長らが尾藤市長に喜びの報告をしました。この表彰は地域材や技術を使った家づくりを実践している団体に贈られるもので、県内では同センターが唯一受賞しました。



こぼれ話



昔の市役所があった場所（山ノ手）に、きれいな「ひろば」が完成しました。公募により「山ノ手ひろば」と名づけられ、普段は多くの人たちの憩いの場として、また関まつりや刃物まつりをはじめとするイベント時には特設会場を設置するなど皆さんに有効に活用していただくことで地域の活性化に貢献します。わかくさトンネル、山ノ手ひろばの完成、西本郷一ツ山線の改良工事と、様変わりしていく街並みを眺め

ながら市役所の旧庁舎があった当時の風景を大変懐かしくも思いました。

このひろばはベンチや舗装の路盤材にリサイクル材を積極的に活用したり、透水性の自然色舗装、照明は蛍光灯やLEDによる省エネ仕様になっています。竣工式の記念植樹では、アジサイ、シバザクラ、ブルーベリー、キイチゴなどが植えられました。街が元気になるとともに、地球に優しい取り組みの良いお手本となっていくことを願います。